

アホっ子エルフを拾つたんだが

クアトロ

■作品概要

サーカル

癒し庵 もち猫（シナリオ／効果音／音声編集・久保田）

卷之二十一

卷之三

卷之三

90m 台語文字數 14,207 文字

舞台

現代／街中 聽き手の部屋／聴き手の職場

登場人物

卷之三

名前…ストラ（333歳／見た目は十代後半）／人称…ストラ
…人間界で行き倒れた女性エルフ／身長151センチ

ダウナーで天然／アホの子

弓術と風の精霊術だけは得意／他は何をやらせてもダメ

趣味／特技・食べる事／狩猟

^聽き手^

社会人
…会社からの帰路でステラを見つけ拾う

△位置の固定図

図はマイクとの距離を示しています
1~4は10cm
5~12は30cm
13~20は1mを想定しておきます
距離が取れない場合、
いかの音量調整等で対応します

1：助けて…。（夜／街中／聴^カ手の歸路）1,317文字

（虫の鳴^カ声）

（聴^カ手の足音）

（位置15／有聲音／消え入りそつな小声）

誰か～、助けて～。

お～い、誰か～。

優しい人間や～ん、居な～い？

（聴^カ手が四方を確認する）

（位置19／有聲音／消え入りそつな小声）

お？ もしかして…、ルリの人物やん…、ステップに興味あり？

「いやちだよ～、□□、□□～。

（位置13／有聲音／消え入りそつな小声）

あ…、ルルルル…。

そのまま真^{マジ}っ直^{ドン}ぐだよ～。

（聴^カ手がステップに近付く足音）

（位置5／有聲音／小声）

「ややや～」

踏んでぬ～、ステップの奥で～、踏んでぬ～。

（聴^カ手が後ずさる足音）

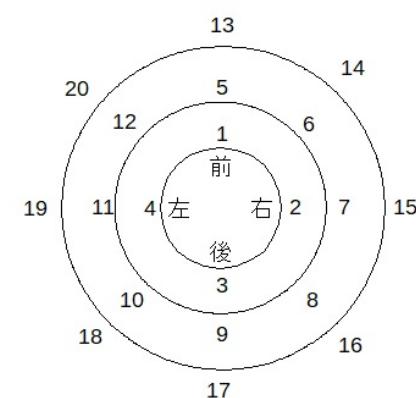
（位置5／有聲音／小声）

人間や～ん、酷い…。

ステップの回^カれいおてて、痛かった…。

はあ…、ルル言われてみれば、暗くて見えないつてのも分かる。

え？ ルルでなにをつて…。



ああ…、やつぱ氣になるよな…。

えつとね、ストラはストラだよ。

エルフの世界から来たんだよ。

ん?

なんなん?

そんな不思議なうな顔して。

あ、そつか。

ストラが可愛いから、見惚（みほ）れちゃった、とか？

え、違う？

えつと、ストラ、可愛いよね？

だよね。

可愛いは人間界でも通じるっぽい。

把握。

話、続けるね。

えつとね、ストラはストラだよ。

ん？

もう聞いた？

マジ？

そうなんだ。

えーっと、どいまで話したつけ？

あー、そこね。

うん。

分かってたよ、うんうん…。

はあ？

分つてました～。

嘘じやありません～。

ふんっ、まつたくもう…。

で。

人間界へ来たのはいいけど、お腹空いちゃって…。

そこで倒れて、咄嗟にね、口に隠れた。

そこでした、つて思った。

人間さんたちは普通、他人が困つても無視する生き物だつて、忘れてた。

え?

そうでもない?

そうなの?

へえ、そうなんだ。

まあそう思つてたからさ、絶望した。

でね、わずかな望みに賭ける事にした。

もしかしたら、ステラを助けてくれる、優しい人間さんが居るかもつて…。

必死に声を出し続けた。

もう駄目かって思つたよ。

諦めかけたら、人間さん、あなたが助けてくれた。

まさに、救世主。

え?

助けるとは…、話つてない?

マジか〜。

(息を吸う音) すう〜。

え〜つと…、冗談だよね?

エルフだよ?

困つてるんだよ?

お腹ペコペコのペコなんだよ?.

ん?

最後に食事したの?

え～っとね、今日のお昼…?

もうそれから～ずっと、なにも食べていないんだ。

へ?

人間さんも?

えっ!

じゃあ人間さんも、空腹で倒れそうって事つー?

あ、それでもないんだ。

そうなんだ…。

あつ、そつか!

これからお夕飯で、ステラも誘つてくれる。

違う?

あ、そう。

違うんだ、へえ…。

んん…。

あ、いいの?

助けてくれないなら、大声で叫ぶよ?-
変態だ～って。

へ?

ほかの人間さんは、無関心?

あつ…、つつ…。

(息を吸う音) すう～。

べ、別に忘れてないし?

そ、そう。

し、知つてたし?

あつたり前でしょ?

でも流石に叫んだら、助けてくれるでしょう。
まあしないんだけど。

(照れくさそうに)

んん…。

でさ…、人間さん…、そんな気の利くステラを…、助けて欲しい…。
もう動く事もままならない…。

一生のお願い…。

お夕飯を…、『馳走してくれただけでも…、いいから…。

(一瞬まで)

え?

い、いいの?

マ?

それ…、マ?

よかつた。

人間さん、ありがとうございます。

命の恩人だよ…。

じゃあ早速、背中、一瞬に向けて。

なんでって、さつや॥はったでしょ?

ステラは、もう動けないんだって。

だから、おんぶしていって。

えへ、つて。

じゃあどうやって運ぶの?

でしょ?

ほかに思いつかない。

と云う訳で、お願ひ。

(ステラをおんぶする時)

(位置2／有声音／小声)

お～、人間さんの背中…、あつたかい…。
疲れ切ったステラには…、ちようどこう…。

あ～、「れ…。

寝ちゃうかも…。

つか寝ちゃうわ…。

お食事の用意が出来たら…、起「」じて…、すや…。

(聴き手の足音)

2：助かつた…。（夜／聴き手の部屋）1,199文字

（カツップラーメンを食べた後）

(位置13／有声音／やや小声)

つぶはあ。

生も返つた～。

へ？

手を合わせるの？

やつさみたいに？

あい。

「」馳走様でした」。

ほう、これも人間さんの作法か～。

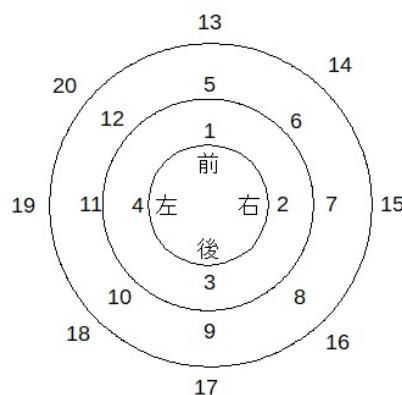
え？

あ、うん。

すつゞく美味しかつたつ！

「」、「カツップラーメン」？

とやうを2つも食べてしまつたあ。
人間さん、ありがとう。



ステラはとても感謝している。

この恩は忘れない。

あ、そうだ、人間さん。

なにかして欲しい事はない?

救つてくれたお礼をしたい。

ほう、言つてみて。

え?

特にない?

ふふむ…。

それだとステラの氣が済まない。

困つたな…。

あ、いい事を思い付いた。

人間さん、エルフ族に伝わる、お耳のお手入れに興味ない?
疲れた心と身体に、とても、効く。

どう?

うん、決まり♪

じゃあ早速、こつちへ来て。

そんでもって、ステラの膝に頭を乗せて。

(ステラに近づく足音)

(位置7／有聲音／かなり小声)

まずは両耳を拭くから、仰向けに。

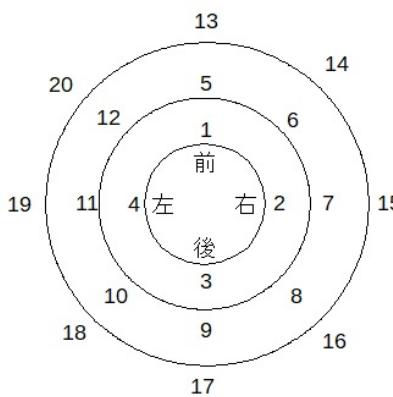
(ステラの膝に頭を乗せる音)

(位置5／有聲音／かなり小声)

そうそう。

それでいい。

じゃあ始める。



まずは清潔な布に、精油（せいや）を含ませる。

そしたらこれで、お耳を拭いていく。

ちょっとヒンヤリするかも。

我慢して。

(耳を拭く音)

どう?

でしょ。

とてもいい香り。

これをするために、清潔な布はいつも持ち歩いてる。

精油もさう。

エルフにとって、お耳は敏感な部分。

いつでもお手入れできる様、カバンに入れてる。

ん?

この精油?

これは幾つかのハーブを調合して、エルフ族伝統の製法で抽出してる。
そ。

作り方はナイショ。

この精油は、緊張をほぐす効果と、殺菌効果、血行促進効果が期待出来る。
つまり、すんごいヤツって事。

ね?

すんごいでしょ?

(自慢気に) ふふん♪

反対のお耳もある。

(徐々に声を大きく／＼ウザい演技)

「しょ」「しょ…。

「しょ」「しょ…。

あ、リツヨリツヨ…。

あ～、リツヨリツヨリツヨ…。

(リツヨリ)

へ?

うるさい?

え～、せつかくノットて来たのに。

だつて、人間さん、とても気持ちよさそうな顔してるから。ついストラも気分がよくなつちやつて。

うん、分かつた。

静かにやる。

…。

んん…。

つぱはつー

ねえ、息しないと、ストラ死んじやう。

え?

もうじゃない?

そりなんだ。

じゃあ、息はある。

(鼻息荒く) ふんっ、す、ふんっ、す、ふんっ、す、ふんっ、す。

なに?

ワザと?

えつと…、なにが?

も～、せつかくのくつわせ(ビザ)なの。
だから、ふざけないで。

いい?

うん、分かればいい。

(しづく耳拭く音)

人間さんのお耳ってさ、小さくて可愛いよね。
エルフのお耳はほら、とんがつて大きい。
え？

それがいい？

この形が？

へえ、そうなんだ。

エルフのお耳ってね、大きいだけじゃないんだ。

よ～く聞こえるの。

例えば…、森の中の物音とか、遠くの話し声とか。

ああ、確かに。

聞きたくない事まで聞こえちゃうってのは、正直ある。

人間さん、鋭いね。

まあそんなワケで、ステラたちエルフ族は、お耳が疲れやすい。

そ。

だからこそ、じつやつて、いつでもお手入れ出来る様にしてる。
おし、そろそろいいかな。

次はね、お耳の中を掃除していく。

そう、耳かき。

人間さんでも、耳かきって、する？

へえ、お耳の汚れは、人間さんも溜まるんだ。
ほ～。

成程ね～。

あ、片方ずつするから、横向きになつて。

(態勢を変える音)

3：おれの耳かき（夜／聴き手の船屋）2,686文字

（位置7／有聲音／かなり小声）

（断続的な耳かき音）

でもまさか、こんな事にならね?」

なにして、人間界に来て、人間ヤバに耳かきをあわせ聞いてなかつた。
うーん、長い出ででる、なにに出てわすか分からぬ?

え?

年齢?

ストーカー?

あのヤバい纖縄な質問、余りしない方がいい。

わ。

訊かれて困る人も困るか?

ストーカー。

333歳だよ。

へ?

うん、年齢は歳にしてない。

ん?

なにが重つかかる事でもあつた?

そ、じゃあいじめだ。

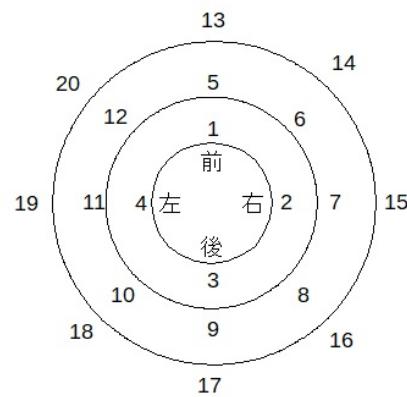
んで~?

333歳って聞いて、心の壁つぶ。

へ?

かわ…、こう~。

（慌ての演技）



そ、そつか。
かわ…、いいつか…。

まあね?

エルフは?

整つた容姿が多いから?

ステラもその恩恵を受けてる~、的な?

う、うん。

そんな感じ。

にえへへ…。

(咳払い) (一瞬まで)
う、うん。

で、可愛いのは当然として、人間さんは、凄く落ち着いてるよね。
そう。

田の前で耳かきしてるのが、エルフなのに。

どうして?

うん…。

うんうん…。

へえ~。

昔から色々と、不思議な体験をしてきたんだ。
その肝の据わり方?

性格?

についてはちょっと戻りになる。

だけど、助けてもらつたのに、勘ぐるのはよくない。

それにステラの直感がこいつ言つてる。

この人間さんはちよろじから媚びてけえつて。
ん?

ステラ、なにか気にならぬ事でも言つた?

『言つてないよね?』

うん、よかつた。

そう『言つて』で、『しづらへ人間さんのお世話をしなりうと想う。』
よろしく。

へ?

困る……?

なんで?

助けてくれたって事は、置いてくれるって事でしょ?

違うの?

マジか~。

(息を吸う音) すう~。

えっ、じゃあなに?.

これが終わつたら、出でけつて?

また空腹で倒れるかもしれないのに?.

(語尾セルフエコー) 人間さんはそんな人じゃないって、

ステラ『信じてる……てる……てる……てる……』。

で。

しばらべーこに居てもいい……、よね?

見た感じ独り暮らしちっぽいし、彼女も居ない……、違う?
やっぱりね。

こんな優しくして、ちょひ……、正直者の人間さんにお相手が居ないなんて……。
ステラ『だつたら、放つておかない。』

うん。

マジ。

本氣と書いてマジ。

もうね。

とにかく珍しがやつ。

朝はチュ～で見送つて、夜はギュ～で帰りを迎えるの。どう？

凄く魅力的。

そう思わない？

ね？

こんな綺麗な奥さんが居たら…、最高じゃない？

でしょ？

まあそれはあり得ないんだけど。

当たり前。

だつて異種族同士なんだもん。

え、なに？

もしかしてちょっと期待した？

やっぱ人間さん、ちょろいね。

匂わせただけで、直ぐ釣れる。

またに入れ食い。

(リズミカルに)ちよつり～、ちよつり～、ちよつり～、ちよつり～♪

うん…、分かってる…。

言い過ぎた。

ものすゞ～く反省している。

だから、お願ひ。

しばり～に置いて。

一生のお願い。

ん？

いいの？

やつぱり人間さんばかり…、優しいね♪

(弦く様に) 嘴つてエルフの一生つて、すりじゃ映いんだが…。

ああ、なんでもない。

うん、なにも言つてない。

おし、じゃあ~、それから仕上げ。

「」のウサギの毛で出来てるポンポンで、細かい汚れを取るよ。

ふわふわ~、ふわふわ~、ふわ、ふわ、ふわわ~。

(耳ふー) ふ~。

ふ~わ、ふ~わ、ふ~わ、ふ~わ、ふわわ~。

(耳ふー) ふ~。

もつかいしと「」。

ふ~わ、ふ~わ、ふ~わ、ふわふわ~、ふわふわ~。

(耳ふー) ふ~ふ~。

あい、「」かはぬしまい。

次、反対のお耳。

「」。

(寝返りの音)

(位置11／有聲音／かなり小声)

ん。
「」。

え?

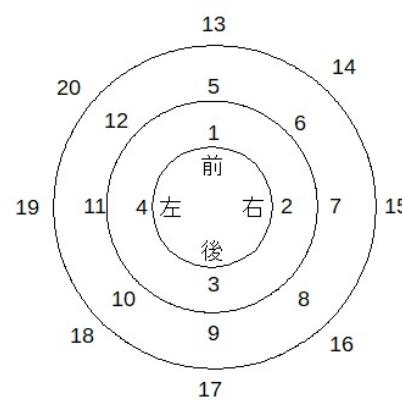
別に手ぐも扱いしたつていいの。

だつてステラは333歳。

人間さんより、ずっと「オトナ」。

だからお子様の人間さんを、甘やかしてもいいの。

(弦く様に) これも作戦。



あつ、ううん。

おウチに置いてもうつためとか、全然そんな事考えてない。
そう。

だつてステラだよ?

そこまで考へてると思つ?

でしょ?

あれ?

なんだか、心が痛む…。

うう…。

え?

続や?

自虐の?

あ、耳かきね。

お~け~お~け~。

自虐発言なんてなかつたんや…。

せやはや…。

ほなな…、やつてこか…。

え~っと、お耳の汚れ~、汚れ~。

お~、あるある。

(断続的な耳かき音)

どれどれ…、お~うよつとー

そおいつー

はあいつー

むむう、この魔窟、中々険しいね。

うん、強敵がいっぱい。

これは倒すの、時間がかかりそり。

せーひー。

ほー！

ヒヤヒヤー

はあはあ…。

手強いね。

「ひなつたら、根絶やしこよのしかなー。」

はあつー

え、なに？

いじ所なの、とめないで。

じゅあ行くよ…。

わお…、つだからー、なにー？

せーつかく画面になつてやれた……あ…じやなべて…。

(息を吸う音) すー。

はー。

やめます。

正面がぞけてた。

真面目がむこ、優しくやる。

任せて。

(ウザい演技)

あ、じつめじつめじつめじつめ、じつめじつめじつめじつめ。

あ、じつめじつめじつめじつめ、じつめじつめじつめじつめ。

あ、かりかりー、かりかりー、あー、かりかりー、かりかりー。

あー、かりかりー、かりかりー、かりかりー、かりかりー、

(ヒーロー)

え?

真面目がむこがむこ。

うん。

凄く真剣。

ステラのよどみのない目を見て。

ジ~~。

にえへつ。

おつと、素が出ちやつた…。

え、あ、ううん、なんでもない。

それよりヤ、今は耳かき中なんだよ。

ふざけた場合じゃない。

下手したら、怪我する。

でしょ?

だから、そういう心構えで居てもいいわないと、困る。

うん、素直なのは、いい事。

ん?

なにか言いたそうな顔してゐるけど、今は受け付けない。

なんだって、ステラはすっごく集中してゐんだから。

ふんすつ!

ほら、集中してるステラ、見て。

見てつてつ~

あ、そつか。

耳かき中だった。

にえへへ。

(弦く様に) ふう~, 危うく人間さんのお耳を貫く所だった。

あ、ううん。

気にしないで。

それにしても、またお腹が空いてやがったな…。

ねえ人間さん。

「のあとで、もう一回」飯を食べたいな、なんて思つんだが。
ん、確かにさつも食べたばつか。

けどステラさんの…、自分でさつのも恥ずかしいけど、食いしん坊。
だから、直ぐお腹が空いやつ。

ね、いいでしょ？

ほら、今こうして耳かきして体力使つてからで、補給しないと。
えへ、いいじゃへん。

もへ、ケチ。

ちよう雑魚。

おたんこなす。

あつ、しまつ…。

流石に過ぎたよな…。

うん、反省してる…、少し。

ちよつと?

わざかに?

まあなんでもいいじゃん。

で。

ご飯、いい?

にえへへ。

ありがと♪

ん、今度はなにを食べやせてくれたの?
お楽しみ?

ふへん、じやあ楽しみにしておく。
じゃあ「いつも、とつと終わるかな。

へ?

いいじゃん。

綺麗になつたはずだから終わる。

んで、『』飯にしょ。

うねりー。

つべこべ言つと、耳かき棒ぶつ刺すよ。

うん。

大人しくなつて偉い。

んじやあ～、こつちもポンポンで、ふわふわする。

ふ～わ、ふ～わ、ふ～わ、ふ～わ、ふわわ～。

(耳ふー) ふ～、ふ～。

ふわつふわ～、ふわつふわ～、ふわつふわ～、ふわわ～。

(耳ふー) ふつふつふ～。

最後にもう一回。

ふ～わ、ふ～わ、ふ～わ、ふ～わ、ふわふわ～。

(耳ふー) ふ～。

よ～っし、おしまい♪

人間さん、起きていいよ。

よし、『』飯にしょ。

ね?

そうしようつー！

ヤツタつ。

うん、大人しく待つてねー！

4：お夜食（夜中／膳や手の品々）2,099文字

（位置19／有聲音／やや小声）

むつー！

凄くいい匂いー！

（嗅ぐのを口笛みたい） くふくふ、 くふくふくふ。

「、」これは…。

（ストラの足音）

（位置5／有聲音／やや小声）

おお～、ぬちや美味しぃ！

（位置6／有聲音／やや小声）

ねえ、人間さん。

これはなんてお料理？

パス…、タ…？

（位置12／有聲音／やや小声）

じゃあ、こっちの飲み物は？

「、」ソメ…？

ふむ…、どいつも聞いた事がない…。

けど、香りは…、ああ、もつ待てないー！
早く早くー！

お、もう食べていいの？

（位置5／有聲音／やや小声）

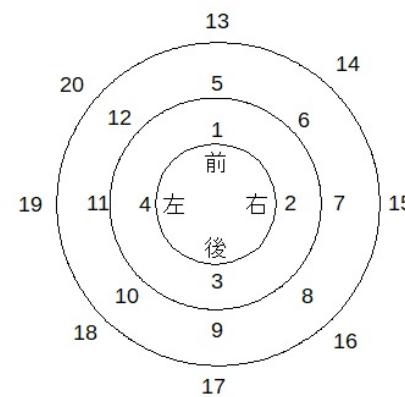
あ、そうだ。

忘れてた。

いただきます。

人間さんの作法だよね。

うん、さつき教えてもらひつた。



つてかた、食べていいい?

うん。

じゃあ、先ずはパスタとやらかさ。

(ガツガツ食べる演技)

はあむつ、あむつ、ふん、ふん、んつー?

うん、うん、んんくつ、ぱはあ~。

(ー)(ー)まで

(興奮気味に)

これ、凄く美味しじつ!

ピリっと辛いけど、独特の香辛料が効いてる。
初めて食べたけど、これ、好きつ!

え?

ペ…?

ん、なんて?

ペペロンチーノ…?

面白い名前。

人間さんは、お料理が上手なんだね♪

(ー)(ー)まで

へ?

れいとう…、しょくひん…?

どういう意味?

うん…。

うん…。

へえ…、凍つてゐのを、温めただけでお料理が完成するんだ…。

え、待つて。

それつてもしかして…、魔法…?

違うの?

そっか…。

てっきり人間さんも、魔法が使えるのかと思った…。

ああ、「人間さんも」って言つのはね、ステラ、魔法が使えるのは?

マジもなにも、エルフなんだから、当たり前。

得意なのは風の精霊術。

まあ見ててよ。

(位置6／有声音／やや小声)

ふんっ!

(風の音)

ほっ!

(氷が出来る音)

そお~い…。

(カップに氷が入る音)

(位置5／有声音／やや小声)

どう?

風を操つて、大気中の水分から氷を生成。
人間さんの飲み物に、入れてあげたよ。

へ?

(落ち込んだ演技)

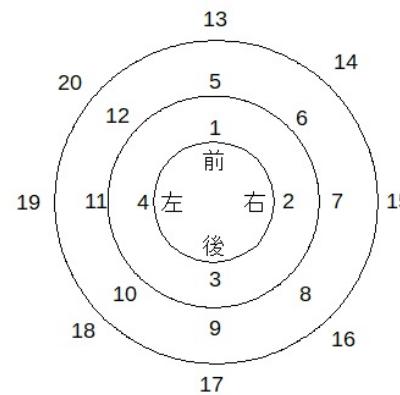
それ、あつたかい飲み物なの?

マジか~。

(息を吸う音) すう~。

え~っと…、ゴメン…。

許してくれるの?



(「」まで)

(位置5で左右に揺れながら／有声音／やや小声)

人間さんは、優しい。

ステラ、人間さん好き。
にえへへつ♪

(位置5／有声音／やや小声)

所で人間さん。

ステラがエルフ族だって言つても、余り不思議がらない。
魔法を見ても、怖がりもしない。

それってステラが本当にエルフ族だって、信じて貰てるつて事?
へえ。

それにしても、人間さんには分からぬ所が色々ある。

え?

うん…。

うん…。

あ〜、確かに。

それはお互い同じか。

(位置12／有声音／やや小声)

でもさ、人間さんって、変な人。

見ず知らずのステラを助けてくれたのは、感謝してる。
でももう少し警戒した方がいい。

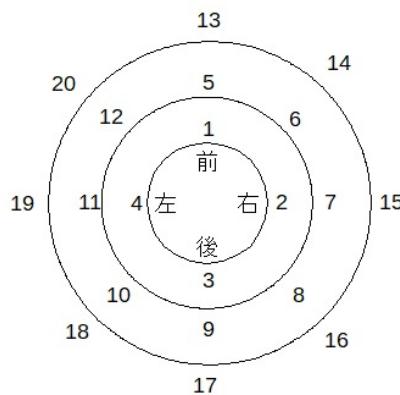
(位置6／有声音／やや小声)

だつて、もしステラが嘘を付いてたら、どうするの?

ステラ、実は暗殺者かもしれない。

人間さんの事、襲つちゃうぞ〜。

(位置5／有声音／やや小声)



なんてね。

へ？

そんな風に見えない？

どういう事？

うん…。

ステラが？

アホっ子？

んん…。

あのヤ…、いぐらなんでも、言つていい事と悪い事がある。

ステラはエルフ族。

人間よりも高貴な存在なんだよ。

口を慎んだ方が、身のため。

いい？

へ？

じゃあ食べるな？

あつ…。

(呼吸する音) すく。

(位置5で左右に揺れながら／有声音／やや小声)

やだなあ、人間さん。

助けてもらつた恩、ステラは忘れてない。

どつちが偉いとか、今は関係ない。

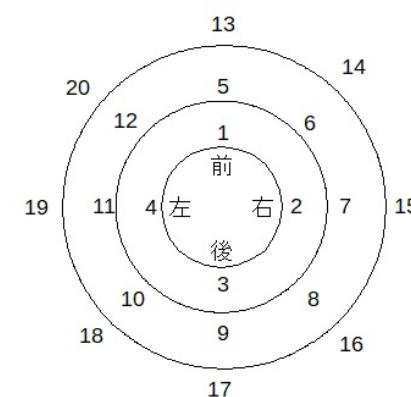
(位置5／有声音／やや小声)

人間さんとステラは、平等。

うん、そう。

平等。

だよね？



(弦く様に) ハハ…、ちよかくてよかつた～。

あ、そうだ。

「ハハ…、ソメ…、だつけ?

すつゞくこい番りしへ。

味は…。

(熱いスープを啜る演技) ずずつ…。

んつ!

(位置5で左右に揺れながら／有聲音／やや小声)

なに」れ…、え、めぢや美味しい…。

「んなに黒だくやんなのに…、口の中で喧嘩しない…。

人間さん、やつぱお料理上手なんだね。

(位置12／有聲音／やや小声)

へ?

野菜を煮て、「ハソメを入れただけ?

はつは～ん。

ステラ、完全に理解したよ。

セヒセヒの「ハソメ」のが、魔法のアイテムなんだね…。

(位置5／有聲音／やや小声)

ん?

なに、それ。

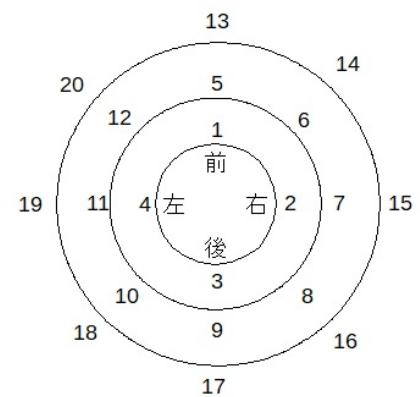
土?

えり、「これが「ハソメ」?

どう見ても土にしか見えないんだけど…。

人間さんは土も食べるの?

ねうじやない?



うん…。

へえ～、美味しい成分を凝縮したのが、コンソメなんだ。
成程ね～。

(コンソメを渡す音)

(匂いを嗅ぐ) くんくん…。

ホントだ。

スープと同じ香り、するつ。

エルフ族の作るお料理はさ、簡素な味付けが多いんだ。
だから、こんなに美味しいもの食べたの、初めて。
人間界に来てよかつた。
ん?

人間界に来た目的?

あ～、それ…、訊いちやう?
どうしようかな～。
そんなに知りたい?
そつか～。

美味しいお夕飯を二回も振舞ってくれたし、特別に教えてあげる。

ステラはね…。

ナイショでエルフの世界を抜け出して、人間界へ遊びに来たつ!

(位置1／無声音／やや小声)

あ、コレ、誰にも話しちゃ駄目だよ…。

二人だけの秘密ね?

(位置5／有声音／やや小声)

さてと…。

根回しはオッケー。

カンペキ。

じゃあ、もう一回確認。

(位置6／有声音／やや小声)

ステラが人間界へ来た目的は？

「遊び」。

そう、遊び…、じゃなくてつ！

秘密つ！

二人だけの秘密つて、約束したつ！

あ、そつか。

こには人間さんとステラしか居ないから、いいのか。

ん、いいのか？

うん、よく分かんないから、もういいや。
はあ…、人間さんと話してると疲れる。

またたくもつ…、ステラの事、からかつてんでしょ。

「うん」つて、あのね…。

(位置5／有声音／やや小声)

あ、いいの？

あんまり調子に乗ると、風の精霊術で、「部屋」と吹き飛ばすよ。
ねえ、いいの？

へ？

それだと、ステラの居場所もなくなる？

おお…、その通りだ…。

ぐぬぬ。

じゃあやめとく。

仕方なくやめとく。

ふう…、『馳走様』。

(眠れりつな演技)

(伸びをしながら) はあ～、今日は散々だつたな～。
くたぐた…。

それに「」飯食べたら眠たくなつてやだ…。
ねえ人間さん、ステラ、寝ちゃつてもこうへ

ありがと。

え?

ベッド?

ああ、あれの事。

なぬ?

ベッドとやつ、使つてここの?

(ステラがベッドまで移動する足音)

(位置19＼有聲音＼小鼓)

「」言われても、いんなふかふかので眠れるかな?
ルの寝床は、だいたい硬い床だから。

(位置19＼有聲音＼小鼓から段々かなり小鼓へ)

「」て人間さんの世界で、油断など許されない訳で。
そんな氣を緩める事なんて…、あるはずが…、すや…。

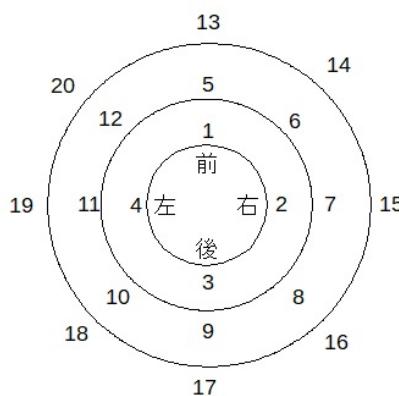
(「」まで)

5：翌朝（朝／聴れ手の部屋）1,112文字

(位置14＼有聲音＼やや小鼓)

(寝顔からの起床)

「」えへへ…、やつ食べられない…。



本物に無理だつて…。

無理つて言つたるやうがいつー

んあつ…。

なんだ、夢か…。

(伸びをする演技) んん…、ふわあ…、んん～。

ふはつ。

(ステラがベッドから降りる音)

(位置5／有声音／眠たさうにやや小声)

人間さん、おはよ。

うん、よく寝た。

そんでもつて、お腹空いた。

なにか食べたい。

人間さんが食べてゐそれ、なに?

食パン?

つてことはパンの一種?

へえ、食べやすい様に予め切つたパンねえ…。

成程。

昨日食べたカップラーメンも、冷凍食品も、

人間さんたちは、お料理にあまり時間をかけない。

ああ、ううん。

悪い意味じやない。

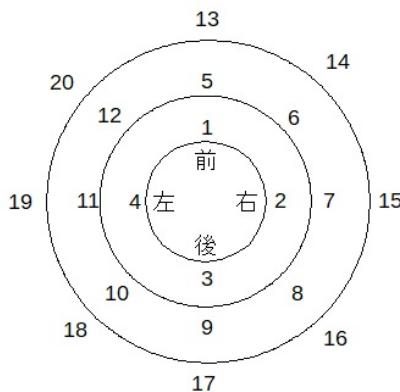
便利になるのはいい事。

ステラはそういう思つてゐる。

便利になる…、つまりそれは進歩していいるといふ事。

生きとし生けるもの、進歩しないと衰退するだけ。種の存続がかかつてゐる。

便利は、いい事。



(力強く) うんっ。

(位置6／有聲音)

え、なに?.

「れ、食べていの?

にえへ。

じゃあステッキも、進歩のために頂くつ!

いただきます。

(食パンを食べる演技) はんっ、んんっー?.

(噛んで飲み込む演技) はむ、あむ、あむ…、うんっ。

(位置12／有聲音)

(興奮氣味に)

人間さん、なに、これっ!

噛んだ瞬間、サクッとしたつ!

うん…。

うんうん…。

へえ、食べる前に焼いてるんだ?

あれ?

パンって普通焼いて作るよね?

それを更に焼いてるの?

まう。

まうほつ。

成程。

表面だけ焼いて、食感を楽しむんだ。

うんっ!.

凄く美味しつ。

「んなに美味しつパンは初めてつ。

(「」まで)

(位置6／有聲音)

所で人間さん。

「のあとの予定は?

かい…、しゃ?

しゅ~…、きん?

あ、ステラ知つてる。

人間さんたちは働き者。

大勢で協力して、お仕事をする。

どう?

詳しいでしょ?

にえへへ~。

もう直球に言われると、照れますな~。

でさ、そういう人たちの事を、社畜…、もう呼ぶんでしょ?
やっぱリストラ、詳しい。

(自慢気に) ふん~!

(位置5／有聲音)

え?

社畜は違う?

ふ~ん、もうなんだ。

まあいいじゃん。

あ、そうだ。

ステラも会社とやうに行つてみたい♪

ええ~、いいでしょ~。

ステラがエルフ族だつて、バレない様に変装していくから。
そだな~。

あ、あれっ！

人間さんの正装。

なんて言うんだっけ？

そう、スーツつ！

今日一日だけ、貸して欲しい。

そもそもって、ステラを会社へ連れてつて？

スーツはブカブカでも、気にしない。

人間さんはもう一着くらい、スーツ持つてるでしょ？

ほらね、予想通り。

ステラ、冴えてる。

で、どう？

会社、行つてもいいよね？

大人しくしてるから。

いいでしょって、ね。

にえへ～。

ヤッタ。

じゃあ早く朝ご飯、食べちゃおう。

え？

ゆつくりでいい？

うん、分かつた。

ゆつくり食べる。

(急いで食べる演技) はむつ、あむあむ、はむつ、あむあむあむ。

(喉に詰まらせる演技) うつ…、んんつ…、ぷはつ…。

危ない、喉に詰まつた。

出勤前に命を落とす所だつた。

成程。

人間たちが仕事に命をかけてる意味、分かつた気がする。

?

そうじゃない？

そうなんだ。

それにしても会社 楽しみ

二
h

卷之三

九
支
手

二人の足音

(位置二／有聲音)

おおう、これが人間さんの職場！

なんだかほかの人間たちが、たくさん居る。

それに見慣れない物が
あち

ねえねえ　この箱には

卷之三

いやあいやあ「この四角い光」でる板に(

10

勉強になつた。

(位置6／有聲音)

あ、ここが人間さんの席？

ん
ん?
。

随分と隅っこなんだね。

それが落ち着く？

ふ～ん、やうごうものなんだ。
え、なに？

パソコンから何のキーボード？

ステラがやつてこいの？

マジ？

壊れたりしない？

そつか、じゃあ安心。

で、どうすればいい？

(位置12／有聲音／やや小声)

ああ、ここの丸くて大きいヤツね。

押すよ？

いい？

本当に押すよ？

そいつ！

(電源ボタンの音)

(位置6／有聲音／やや小声)

ひつ！

なんか光って、ブーンって鳴り出した。

壊れた？

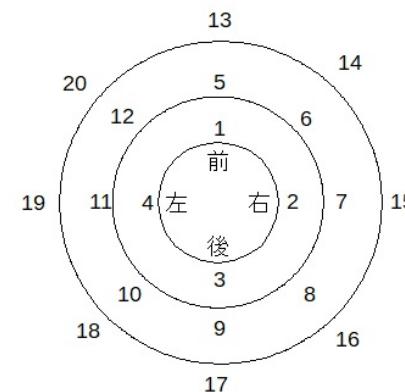
これ壊れたね？

ヤバいんじゃない？

え？

正常？

そつか、これが正常。
そつか…。



おー、モニターちゃんとやうに、なにが出てきた。

「これは人間さんがやるんだ?」

(位置11／有声音)

ぱすわーど?

うん…。

うん…。

へえ、秘密の暗号つて事ね。

成程、それは教えちゃいけないヤツ。

ステラにも分かる。

お、なんだかたくさん、絵が出てきた。

読めないけど、色んな情報が詰まつてねうつ!

早速お仕事?

うん、分かった。

ステラは横で、大人しく見てる。

大丈夫。

任せて。

(しばらくキーボードを打つ音)

(位置11／有声音／かなり小声)

(一人で遊んでいる演技／ノッてきて徐々に声が大きくなる、オーケの群れが、里に迫つてゐる、

とりやつ!)

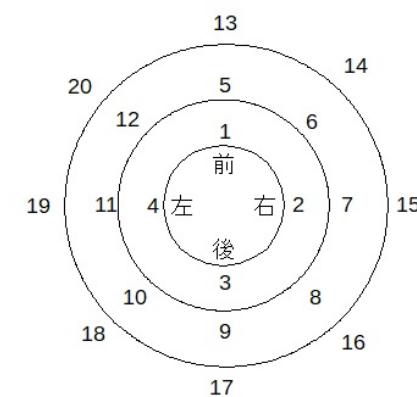
ヒューン、ズドドドつ、バチインつー

ふつ、風の精靈術の前では、醜いオーケの相手などたやすい。

むむつ、今度はゴブリンつー

そおいつ!

ヒュン、ヒュン、シュー、ズドーンつー



流石ステラ。

弓矢は百発百中。

ゴブリンの全滅を確認。

ふう、今日も里に平穂が訪れた。

（二）無（二）

(100)

位置二＼有声部＼小声

卷之三

卷之三

そ～マジ?

そうなんだ。

ああ、ゴメン。

だってやる事ないし、暇。

確かに会社に来たいって言ったのは、スケベ

卷之六

「あんな事を文句も言わずにやっている

卷之二

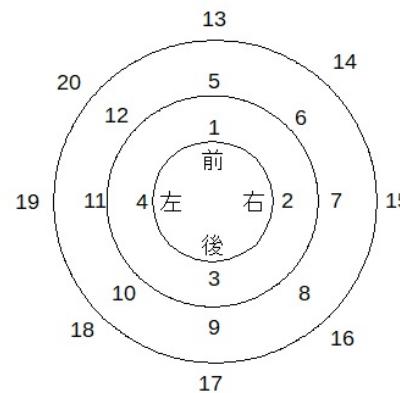
卷之二十一

たくさん助けてもらつたから、恩を返したい。

ない？

またまたあ。

本当はあるんでしょ？



あ、ないんだ。

本当にないんだ。

マジか〜。

(息を吸う音) すう〜。

人間さん…、とてもここにいんだけど…、帰りたい…。

いいよつて。

え〜つと…、その…。

帰り方…、分からん…。

それでその…、どうしたらい?〜?

待つ?

やっぱ待つしかないんだ。

デスヨネ〜。

じゃあさ、なにか手伝いたい。

ステラにも出来しきな事、ホントはあるんでしょ〜

あ、ホントにない。

ないんだ。

そつか…。

え?

肩の…、マッサージ?

どうやるの?

トントンヒットでいいだけ?

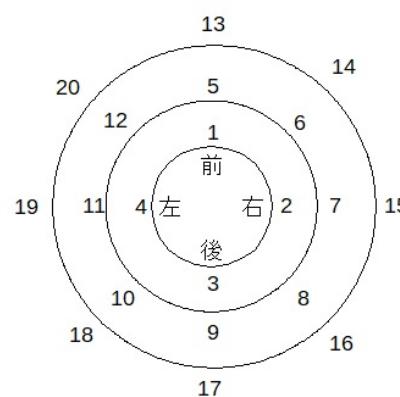
ほう。

(位置11から9へ移動しながら／有聲音／小声)

そんなんでお手伝いになるなんてい、喜んでする。

(位置9／有聲音／小声)

じゃあ早速やつてみる。



(しばりく肩叩きの音)

(ウザい演技)

トマトの栽培法

„...תְּהִלָּה, תְּהִלָּה, תְּהִלָּה...”

(二)まで)

(位置8／有聲音／小聲)

あ、言わないで。

分かつてる。

ウサ�이って言うんでしょ、

三二九

三

८४

卷之二

新編和漢書

(位置9／有聲音／小聲)

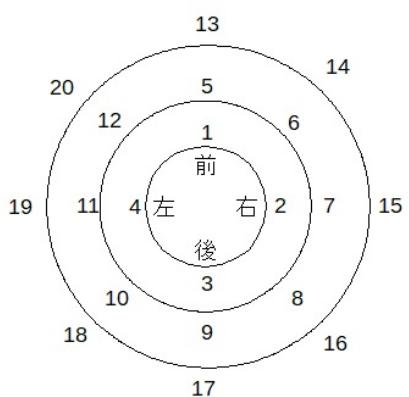
アハハ……アハハ……ねえ、普通つなこや??

(位置 10／有聲音／小聲)

(まくしたてる様に)

その基準はあります?

ねえ、教えて。



ステラが納得出来る様に教えて。

(「」まで)

(位置9／有聲音／小声)

へ？

自由にやつていい？

なうんだ、それなら最初からこう言つてよ、もづ。

じゃあ好きな様にやる。

…。

んん…。

ねえ、好きな様にって、どうすればいいの？

いやがれつ言われると、分かんないや…。

もー、面倒とか言わないで。

ステラは凄く真剣。

だから暇ー、じゃなくて、持て余したー、でもない。

えーっと、まあなんでもいいじゃん。

要するに、お世話になつた人間さんに、少しでも恩返ししたいと思つてゐる。
気持ち…、そう、気持ちが大事つて事。

(自慢気に) ふんつ♪

え？

お話しながらトントンしていいの？

それだと、お仕事の邪魔にならない？

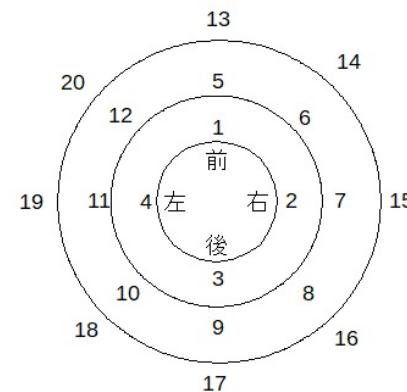
そつか、なうそつする♪

(しぶしぶ肩呂きの音)

えーっと、じゃあ…、人間さんの事、もつと知りたい。

人間さんは、彼女いない。

それっぽい人の影もない。



恋とか、しないの?

うん…。

うん…。

へえ、仕事してた方がいい…、つか。

それって、生きてて楽しい?

ああ違うの。

煽つてるとじやなくて、真剣に。

ステラに言われても嬉しくないかもだけど、人間さんは凄く優しい。
それは普通の優しいじやない。

正義感とか、道徳心とか、そういうものを感じるのは。
そこにはなにか、特別な思いがある。

違う?

へ、なんもないん?

あつ…、やつ…。

ないんだ…。

ホントにないの?

へえ…、なるほど?

あ、ううん。

いいの。

今言つた事は忘れて?

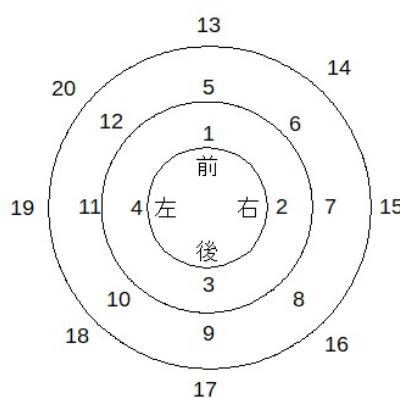
お願ひだから忘れて?

記憶の海からからボーンと弾き出しつ。

ほつ。

ほつ。

(位置8／有聲音／小声)



うん、偉い。

別に、照れなくていいのに。

え？

照れてない？

そうなの？

まあいいじゃない。

人間さんはお子様だから、いい事をしたら褒める。

これ、大事。

人間さんだって、褒められて嫌じやないでしょ？

ほらね。

だからいいの。

言つ事聞けて、偉い偉い。

へ？

お手伝い出来て偉い？

ステラが？

あのさ、これくらい、ステラにも出来る。

バカにしないで。

だつて、ただ肩をトントンしてるので。

こんな事で褒められても、ステラは喜ばない。

その証拠に、ステラの田を見て。

(位置5／有聲音／小声)

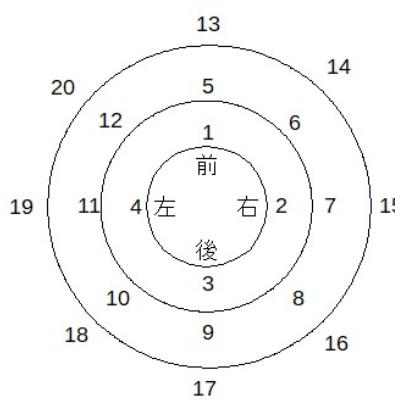
ジ～～。

にえへつ。

(位置8／有聲音／小声)

ああいけない。

喜んでるのがバレちゃう…。



いい、人間さん。

今のはナシで。

そう、なにも見てない。

(位置10／有声音／小声)

確認ね?

ステラは?

喜んで?

「ふぬ」 ハー!

そうハー。

メタメタのメタに喜んでいる～…、って、あのヤ。セツヤのはナシつて書いたよね?

ステラは喜んでない、いい?

じゃあ改めて確認ね。

ステラは褒められたぐういではよひいば?

ないハー。

はーい、正解。

これくういでは動じない。

え?

マッサージが上手?

ふう～ん…。

にえへへ～。

あ、しまつ。

(息を吸う音) す～。

べ、別に嬉しくない。

ホントだもん。

なんだニヤー！ヤしてぬの?

もう、人間さんの意地悪。

べえーだ。

まつたぐもーう…。

ステラを怒りさせると、酷い目に遭うって、知りなーんだ。

え、知りたい?

あー、えつと…。

知りたいんだ?

へえ…。

(位置2／無聲音／囁き)

ねえ、ホントに知りたい?

マジ?

あー、マジなんだ…。

(位置9／有聲音／かなり小声)

(考え込むように)

ん~。

アレがああなつて、コレがーこう…。

んん~。

はつはーん、さうわー、さうづ事な訳。

おつけー、おつけー。

(1)こまで

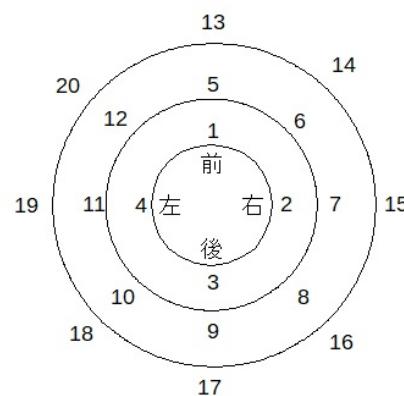
(位置8／有聲音／小声)

(咳払い) う、うんっ。

じゃあいーよ。

ステラを怒らせるの、どうなーか教えてあげる。

それはね…。
なんと…。



ステラの風の精霊術が暴走して、「Jの会社」と消し飛んでやうだ。

どう、怖いでしょ？

え？

そうして…、欲しい？

えへつと…、マジ？

(位置10／有聲音／小声)

(冗談でしょといふ感じで)

いやいやいや。

いらっしゃなんでも、会社ないなつたら困るでしょ。

だつてお仕事出来なくなるんだよ、そんなのダメ…。

(「J」まで)

え？

その方がせいせいする？

おうふ…、人間さん。

優しい一面を持つてるけど、実は心の闇、深そつ…。

ん、まあいいんじゃないかな。

人間さんには、人間さんの個性がある。

ステラにも、ステラらしい可愛い所がある。

でしょ？

あれ、なんだよどんぐら？

お？

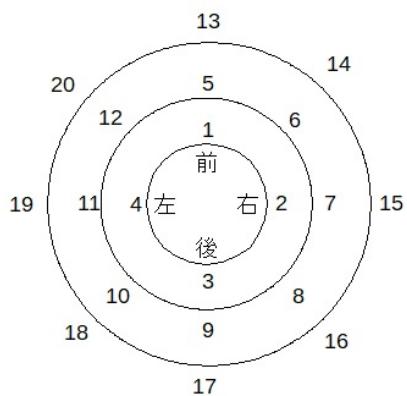
(語氣強く) あんなよね？

うん、よかつた。

(位置9／有聲音／小声)

で、続きね。

そういう変わった所もあって、似てる所もあって、だからJ面白い。



ステラはこう思う。

だから人間さんの心の闇、どんなに深くても、ステラは受け入れる。任せて。

人間さんは、ステラを救ってくれた。

それは事実。

だからステラは、人間さんを信用している。

それに、エルフ族は誠実な種族。

恩を仇で返す様な真似はしない。

だから会社も消し飛ばさない。

なんやかんや言つても、仕事が出来なくなつたら、お金も手に入らない。
違う?

やつぱりね。

だつたら物騒な事は、しない。

安心して?

(自慢気に) ふふんっ。

人間さんは、見る目がある。

ステラを信じてくれる。

ちよろ…、じゃなくて、素直な子。

そう、素直で優しい。

ステラは、褒めて伸ばすのが得意。

だから、いい所はどんどん褒めていく。

ほか、褒めて欲しい事、ない?

え~、ないの?

ん~、じゃあ~。

今日もお仕事して偉い。

この四角くて「ボコしたの、なんて」の?

キーボード?

ふむ…。

キーボードさんをカタカタすると、人間たちの文字が出てくる。

凄い。

え、これは人間さんの能力じゃないんだ?

うん…。

うん…。

へえ、パソコンさんの能力…。

パソコンさん、無口だけど、偉い。

(褒めた事を満足した様に) うんうん。

(位置7／有声音／小声)

所で人間さん。

そろそろお腹、空いてきてない?

え、まだ十時?

お昼には早いの?

そつか…、そなんだ。

ん~、でもでも、ステラはお腹空いちやつてる~、的な?

(位置7から11へ移動しながら／有声音／小声)

なにか食べたいな~、なんて思つてみたり?
んん…。

(位置11／有声音／小声)

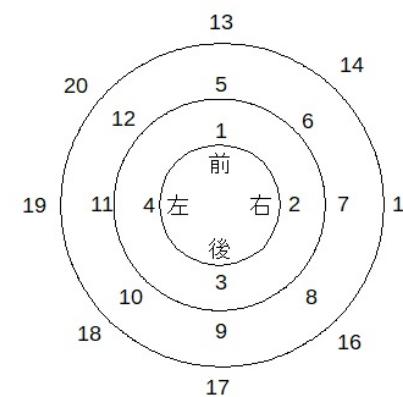
(か細い声でふざけながら)

お願ひだよ人間さん…。

ステラはお腹ペコペコのペコなんだよ…。

あ、ほり。

空腹で田の前が暗くなってきた…。



「」のままだとマズい。

優しい人間さん、こんなステラを、放つておいていいの?

(棒読み) あー、もうダメだー、ふわりー、ふわりー。

(「」まで)

(素に戻つて)

ねえ、白けた田で見ないで。

お腹が空いた。

なにか食べさせて。

お願い。

(「」まで)

(引き出しおから携帯食料を取り出す音)

(肩叩き音終わり)

(位置5／有聲音／小声)

ん?

ナニコレ?

人間さんの、非常食?

こんな小さいの、やだ。

お腹、膨れない。

もつとたくさん食べたい。

ほら、昨日みたいなカツラーメンとか、ないの?

ぶう、ないんだ。

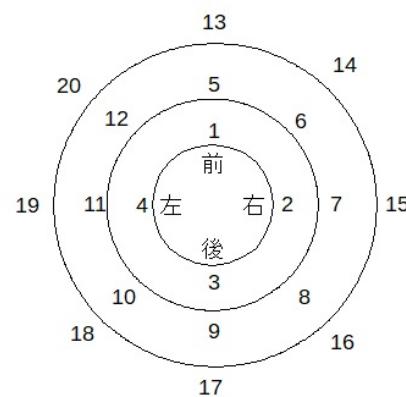
へ?

じゃあ食べるなつて…。

(申し訳なさそうに)

あー、嘘です。

これで満足です。



もう文句言ないので。
はい、いただきます。

(「」まで)

(**携帯食料を食べる演技**) はむつ、ふん、あむ、むん…。
んんっ！

これ、美味しいっ！

しつとりしてゐるに、噛んだ瞬間はサクッとして、新食覺つ！
でもなんか…、うつ、喉に詰まりそう…。

ああ、お茶、ありがと。

(**お茶を飲む演技**) んつ、んつ、んつ、ぶはつゝ。

ふう…、落ち着いた…。

んく、貰つておいてなんだけど、物足りない。

もつと食べたい。

え？

もう、ない？

マジか〜。

(**息を吸う音**) すく〜。

うう…、じゃあ、人間さんのお昼ご飯まで我慢する。

任せて。

我慢出来るので。

(**自慢氣に**) えつへん。

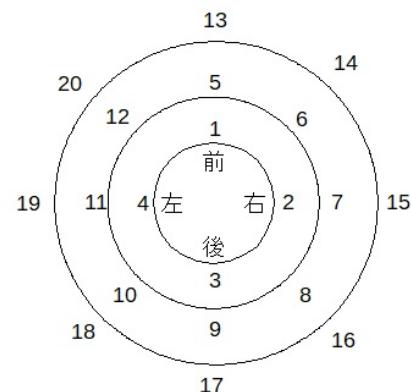
…。

(**位置4／有聲音／かなり小声**)

(**申し訳なさそうに**)

ねえ、お昼、まだ？

あ、はい。



待ちます。

(「」まで)

7：ストラと帰宅（夜／聴き手の部屋） 1,897 文字

(位置18／有聲音)

ふう～、お仕事もお夕飯も済んで、べたべただあ。

人間さんも疲れたでしょ？

じゃあ今日も、お耳のケア、する？

うん、いいよ。

今日はお耳をマッサージする。

結構気持ちいい。

ほら早く、こー、座つて？

(位置6／有聲音／かなり小声)

じゃあ昨日も使った精油を手に取つて…。

これでお耳をマッサージする。

(位置5／有聲音／かなり小声)

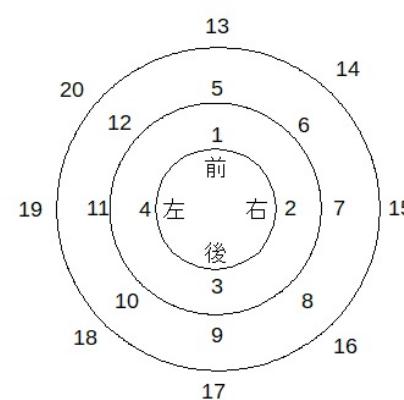
いやあ～、今日はいっぱい働いて疲れたね～。
それにお夕飯もたくさん食べて、満腹だ～。
え？

ああ、確かに。

ストラはお仕事を、ただ見てただけ。
とても暇だつたつ！

なのにお人間さんは凄い。

黙々とお仕事をしてて、感心した。



よくあんなのを、数時間も続けられる。

だつてひたすらキーボードさんを、カタカタしてただけ。あんなのステラだつたら、耐えられない。

直ぐに飽きたか、お腹が減つて投げ出すと思つ。

だから人間さんは偉い、偉い。

(位置11／有声音／やや小声)

(興奮氣味に)

そういうえば人間さん。

さつき食べた、お好み焼き？

つとこりの人は、とても美味しかつたつ！

お野菜がいゝっぱい入つてて、ちゃんとお肉もあつたつ！

甘辛いタレがこれまた絶妙に合つてて、十枚も食べちゃつた♪

(11)まで

人間さんは、三枚くらいたつだけ？

あれで足りるの？

へ？

ステラのために、多くくれた？

(位置5／有声音／やや小声)

(うつとりといつた感じで)

そつか。

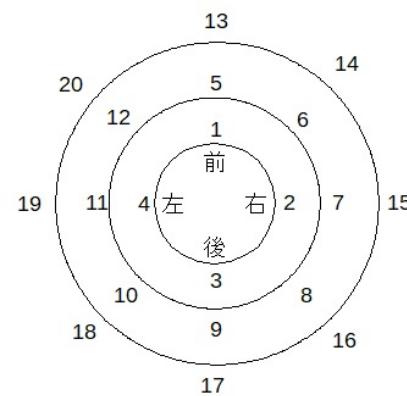
やっぱ人間さんは優しい。

なんかその…、上手く言えないけど…、ステラ、人間さんの事、好きかも…。
うん、そう。

(位置5から7へ移動しながら／有声音／やや小声)

愛の方の好き…。

(11)まで



(位置7／有声音／やや小声)

(我に返った様に)

あ、やつぱナシ。

今のナシで。

異種族同士の恋愛なんて、あり得ない。
だから忘れてもろて。

いい?

ホント?

じゃあ確認。

(位置7から5へ移動しながら／有声音／やや小声)

ステラは人間さんを～?

(位置5／有声音／やや小声)

「好キ」。

そう、好きつー

もうね、美味しいものをたくさんくれるし、とても親切だし、サイコーつ。
んん…。

ねえ…、あのセ…、忘れてって言つたよね…。

なんで覚えてる?~

つて、簡単に記憶を消せるはずないか…。

うーん、風の精靈術は数あれど、記憶を操作する術（すべ）はない。

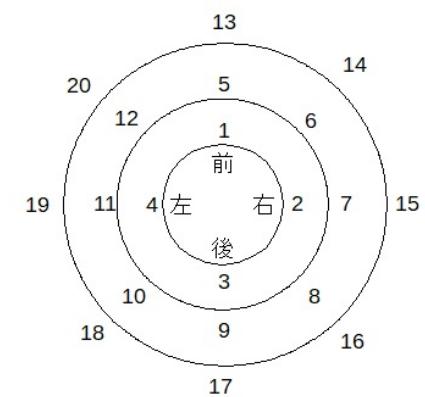
あー、ダークエルフの闇魔法ならあるいは…。

でも人間界にダークエルフなんて居ないだろうし、考えるだけ無駄か…。
ふむ…。

一旦落ち着く?

はい、深呼吸して。

(深呼吸) すくふく、すくふく、すくふく、すくふく。



おし。

じゃあもつかい確認ね。

(位置5から11へ移動しながら／有声音／やや小声)

ステラは人間さんを～?

(位置11／有声音／やや小声)

す…?

き…?

じゃ…?

ない事もない。

あ～い、せいか～い!

うう…。

あの…、建前だけでも、忘れた事にして欲しい。

異種族で惹かれ合つてんだなんて知れたら、ステラ、追放されちゃう。
え?

(位置11から5へ移動しながら／有声音／やや小声)

惹かれ「合ひて」はない?

(位置5／有声音／やや小声)

あ～、そ～なの?

人間さんは、ステラの事、好きじゃないん?
マジか～。

(息を吸う音) す～。

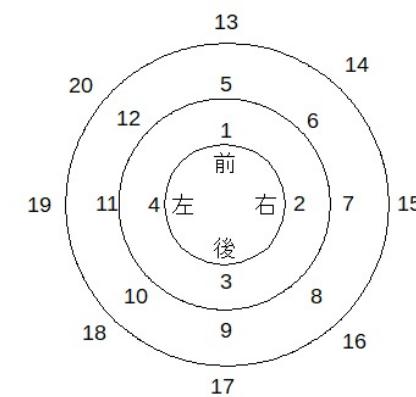
え、じゃあなたに?

ステラの勘違い?

だつてさ、こんなにももなしてくれぬつて事は、そういう事じゃないの?

あ、勘違い。

全部ステラの思い通り。



ほつほ～。

成程～。

とほほお…。

え～っと…、今後ステラを好きになれる可能性もナシ?~

あ～、つね、そうね。

聞くんじやなかつたね。

しょぼ～ん。

はつ！

ちよつと待つて?

という事はつまり、ステラはいつ追いで出されてもおかしくないって事つー?
おうか、やつぱりいつなんだ…。

(反発するよつこ)

あ、いいんですか?

ステラがその辺で、野垂れ死んでもいいんですか?

そうなつたらアレ。

え～つと、そつ。

異種族間保護義務違反(いしおもくかんせき)にあたる。

ホント。

これはね、違反したら酷い目に遭う。

嘘じやない。

ホントだつてば。

ほら、ステラの真剣な目を見て。

(「」ままで)

ジ～～。

にえへ～。

ああ、いけない。

んん…。

嘘です。

今テキトーに作りました、はい。

(位置7／有声音／やや小声)

(訴えかける様に)

え～～、だつてせ、聞いて?

人間さんに見捨てられたら、ステラ、もうおしまいなんだよ。

食べていく術（すべ）もない。

つまり待ち受けているのは…、死つ！

デーテーン。

いいの?

ステラ、死んじやう。

いいの?

(ここまで)

(位置7から5へ移動しながら／有声音／やや小声)

人間さんには、そんな残酷な決断、出来ない。

(位置5／有声音／やや小声)

ほ～う。

段々ステラを放つておけなくな～る。

ステラを保護したくな～る。

どう?

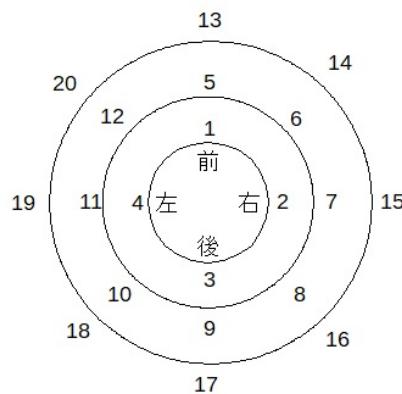
いいの? ?

あれ?

今仕方なくって言わなかつた?

んん?

ホントお?



ふむ~。

まあいいや。

じゃあしじば~いぐは置いてくれるんだね?

ありがと♪

そういうえば人間さん。

明日はお仕事お休み、もう言つてたよね?

じゃあさ、お願ひがある。

ステラ、街で食べ歩き、したい。

とこどん人間界を、遊び尽くしたい。

ねえ、ダメ?

いいの?~?

(位置5／有声音／やや小声)

にえへ~。

優しい人間さん、大好き♪

(耳マッサージ音終わり)

(お腹が鳴る音)

(位置5／有声音／やや小声)

うつ~。

想像したら、お腹空いちやつた~。

あの~せ、人間さん。

今日もお夜食~、ない?

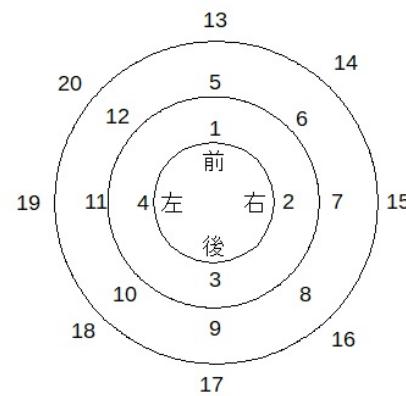
あつたら嬉しい。

あるの?

にえへへ~。

流石は人間さん。

気が利く。



で、お夜食、なにをくれるの？

分かった。

楽しみにしておく。

あ、そうだ。

今日はステラもお手伝い、したい。

そう。

少しでも人間さんの、役に立ちたい。

それがステラに出来る、精いっぱいのお礼。

助けてくれた人間さんに、失礼があつちゃいけない。

と言う事で、お夜食の準備、行こ？

にえへへ～♪

(位置19／有聲音／やや小声)

お夜食、楽しみ♪

おつやつしょく～♪

おつやつしょく～♪

